

原料リサイクル伸びる

日鉱商事は10年度(11年3月期)までの中期経営計画をスタートした。原料リサイクル、化学品、金属加工品、表面処理、新素材などの戦略分野を中心に内外で事業領域と業容拡大を進める。相場・与信リスク管理にも引き続き力を入れていく方針で、3年間で2年間15億円以上10億円に向けての経常利益を安定的に計上できる体質を作り上げる(関根行助社長)ことを目指す。

日鉱商事は金属加工(伸銅品、特殊金属、スリット加工など)、化学品(硫酸、洗浄剤など)、新素材(レアメタル、地金、金属粉末、銅箔、ターゲット材など)、表面処理(メッキ液、メッキ薬品など)、原料リサイクルなどを手掛ける。08年3月期の売上高は1,200億円を大きく上回り、3期連続で過去最高を更新した。原料リサイクル、金属加工の両部門が大幅に伸び、07年4月の日鉱メタルプレッシングの吸収合併や金属相場の変動も大きく影響した。

4月にスタートした中期経営計画は、事業エリアおよび業容の拡大を基本戦略とする。硫酸販売は輸出商社の震輝から販売事業を譲り受けたことにより海外にも販売ルートを確保したほか、日鉱メタルプレッシングの吸収にとまない新たなメッキ液などの取り扱いを始めている。引き続き日鉱金属グループの戦略の中で、メーカー商社として貢献できる分野を中心にビジネスを模索する。

有望分野の1つが、ここ最近の業績拡大の原動力となっている原料リサイクル事業。日鉱金属グループの原料スクラップ集荷部隊として「全国で取扱量は間違いないナンバーワン」の実績を生かしていく。